

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2022年8月12日

【四半期会計期間】 第108期第1四半期(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

【会社名】 テルモ株式会社

【英訳名】 TERUMO CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長CEO 佐藤 慎次郎

【本店の所在の場所】 東京都渋谷区幡ヶ谷二丁目44番1号

【電話番号】 03(3374)8111(代表)

【事務連絡者氏名】 経営役員  
チーフアカウンティング&ファイナンシャルオフィサー(CAFO)  
経理部、財務部、税務部、CAFO室、J-SOX室担当 武藤 直樹

【最寄りの連絡場所】 東京都新宿区西新宿三丁目20番2号 東京オペラシティタワー 49F

【電話番号】 03(6742)8500(代表)

【事務連絡者氏名】 経営役員  
チーフアカウンティング&ファイナンシャルオフィサー(CAFO)  
経理部、財務部、税務部、CAFO室、J-SOX室担当 武藤 直樹

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第107期 第1四半期 連結累計期間	第108期 第1四半期 連結累計期間	第107期
会計期間	自 2021年4月1日 至 2021年6月30日	自 2022年4月1日 至 2022年6月30日	自 2021年4月1日 至 2022年3月31日
売上収益 (百万円)	171,716	197,340	703,303
税引前四半期利益又は 税引前利益 (百万円)	36,020	29,667	114,501
親会社の所有者に帰属する 四半期(当期)利益 (百万円)	27,895	22,398	88,813
四半期(当期)包括利益 (百万円)	28,592	117,743	178,394
親会社の所有者に帰属する持分 (百万円)	874,004	1,116,514	1,012,313
資産合計 (百万円)	1,339,556	1,583,371	1,473,693
基本的1株当たり四半期 (当期)利益 (円)	36.90	29.61	117.45
希薄化後1株当たり四半期 (当期)利益 (円)	36.87	29.60	117.38
親会社所有者帰属持分比率 (%)	65.2	70.5	68.7
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	29,904	23,361	141,467
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	21,023	16,122	78,454
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	23,056	14,845	70,879
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	186,745	209,566	205,251

(注) 1. 当社は要約四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 上記指標は、国際会計基準(IFRS)により作成された要約四半期連結財務諸表及び連結財務諸表に基づいております。

#### 2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間(2022年4月1日～2022年6月30日)においては、前年度に新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大の影響を受けて減少していた医療需要が回復し、当社グループの販売は概ね好調に推移しました。一方で営業利益については、製造費へのインフレ影響や、コロナ禍で停滞していた販売促進活動の再開など、前年同期と異なる環境・状況を受けて減益となりました。

当第1四半期連結累計期間の業績は以下のとおりです。

	(単位：百万円)			
	前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	伸長率 (%)	為替影響除く 伸長率(%)
売上収益	171,716	197,340	14.9	5.0
売上総利益	94,259	101,637	7.8	1.8
調整後営業利益	40,203	35,893	10.7	11.4
営業利益	36,233	30,427	16.0	14.4
税引前四半期利益	36,020	29,667	17.6	-
四半期利益	27,895	22,398	19.7	-
親会社の所有者に帰属する四半期利益	27,895	22,398	19.7	-

当第1四半期連結累計期間の地域別売上収益は以下のとおりです。

	(単位：百万円)			
地域	前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	伸長率 (%)	為替影響除く 伸長率(%)
日本	49,175	49,869	1.4	1.4
欧州	34,501	38,574	11.8	5.6
米州	54,397	66,244	21.8	3.3
中国	15,473	19,369	25.2	7.8
アジア他	18,169	23,282	28.1	15.9
海外計	122,541	147,470	20.3	6.4
合計	171,716	197,340	14.9	5.0

#### <売上収益>

売上収益は、前年同期比14.9%増の1,973億円となりました。

日本では、医療需要の回復は依然緩やかながら、メディカルケアソリューションズカンパニーのファーマシューティカルソリューション、心臓血管カンパニーのTIS(カテーテル)、血管などの事業において増産や新製品効果があり、前年同期比1.4%の増収となりました。

海外では、心臓血管カンパニーのTIS事業とニューロバスキュラー事業、血液・細胞テクノロジーカンパニーにおいて需要が顕著な回復を示し、前年同期比20.3%の増収となりました。

## &lt;利益&gt;

売上総利益は、インフレ影響によるコスト増加があったものの、増収により前年同期比7.8%増の1,016億円となりました。

一方で、前年度には新型コロナウイルス感染症拡大により抑制されていた販売促進活動がほぼ平常化したことにより、調整後営業利益は、前年同期比10.7%減の359億円となりました。

同様に、営業利益、税引前四半期利益、親会社の所有者に帰属する四半期利益は、いずれも減益となりました。

なお、当社グループは、当社グループが適用する会計基準であるIFRSにおいて定義されていない、調整後営業利益という業績管理指標を追加的に開示しております。調整後営業利益は、営業利益から買収に伴い取得した無形資産の償却費及び一時的な損益を調整した利益であり、セグメント利益と一致しています。

調整後営業利益は、当社グループが中長期的に持続的な成長を目指す上で、各事業運営の業績を把握するために経営管理に利用している指標であり、財務諸表の利用者が当社グループの業績を評価する上でも、有用な情報であると考えております。

報告セグメント別の売上収益の状況は以下のとおりです。

なお、前連結会計年度より、従来の「ホスピタルカンパニー」のセグメント名称を「メディカルケアソリューションズカンパニー」に変更しております。当該変更は名称変更のみであり、セグメント情報に与える影響はありません。これに伴い、前第1四半期連結累計期間につきましても、変更後の名称で記載しております。

(単位：百万円)

報告セグメントの名称		前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	伸長率 (%)	為替影響除く 伸長率(%)
心臓血管カンパニー	売上収益	99,568	116,825	17.3	5.0
	(日本)	12,698	12,853	1.2	1.2
	(海外)	86,869	103,972	19.7	5.5
メディカルケアソリューションズ カンパニー	売上収益	43,783	45,992	5.0	2.2
	(日本)	33,996	34,512	1.5	1.5
	(海外)	9,786	11,480	17.3	4.6
血液・細胞テクノロジー カンパニー	売上収益	28,301	34,459	21.8	9.1
	(日本)	2,416	2,441	1.1	1.1
	(海外)	25,884	32,018	23.7	9.9

## &lt;心臓血管カンパニー&gt;

日本では、医療需要の回復は依然緩やかながら、TIS事業や血管事業において新製品効果を含む販売増があり、増収となりました。海外では、北米・アジアにおいてTIS事業とニューロバスキュラー事業の需要が顕著な回復を示し、グローバルの売上収益は前年同期比17.3%増の1,168億円となりました。

## &lt;メディカルケアソリューションズカンパニー&gt;

日本では、ファーマシューティカルソリューション事業が需要増により販売を伸ばしました。海外では、北米で選択的に投入している、ホスピタルケアソリューション事業の獣医市場向け製品が好調でした。その結果、グローバルの売上収益は前年同期比5.0%増の460億円となりました。

## &lt;血液・細胞テクノロジーカンパニー&gt;

日本では、アフエレス治療関連製品を中心に増収となりました。海外では、アジア・北米を中心に血液センター向け製品の需要が回復した結果、グローバルの売上収益は前年同期比21.8%増の345億円となりました。

(2) 財政状態の分析

資産合計は、1,097億円増加して1兆5,834億円となりました。これは主に、為替相場が円安に推移した影響及び生産設備や新ITシステムへの投資等により有形固定資産が198億円増加、のれん及び無形資産が488億円増加したことによるものです。

負債合計は、55億円増加して4,669億円となりました。これは主に、上記同様の為替の影響等により社債及び借入金が増加した一方、設備関係の支払等により営業債務及びその他の債務が42億円減少したことによるものです。

資本合計は、1,042億円増加して1兆1,165億円となりました。これは主に、四半期利益の計上により224億円増加、上記同様の為替の影響等に伴うその他の包括利益の計上により953億円増加した一方で、剰余金の配当により136億円減少したことによるものです。

(3) キャッシュ・フローの状況

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、234億円(前年同期は299億円の取得)となりました。税引前四半期利益297億円、減価償却費及び償却費166億円、法人所得税の支払額99億円が主な要因です。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、161億円(前年同期は210億円の使用)となりました。生産設備等への投資に伴う有形固定資産の取得による支出115億円、新ITシステムへの投資等に伴う無形資産の取得による支出42億円が主な要因です。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、148億円(前年同期は231億円の使用)となりました。配当金の支払額134億円が主な要因です。

また、上記に加えて、現金及び現金同等物に係る換算差額により119億円増加した結果、現金及び現金同等物の当第1四半期連結会計期間末残高は、前連結会計年度末より43億円増加して2,096億円となりました。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、141億円です。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	3,038,000,000
計	3,038,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (2022年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (2022年8月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	759,521,040	759,521,040	東京証券取引所 プライム市場	単元株式数 100株
計	759,521,040	759,521,040		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2022年4月1日～ 2022年6月30日		759,521,040		38,716		52,103

##### (5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2022年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2022年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 3,194,900		
完全議決権株式(その他)	普通株式 756,177,800	7,561,778	
単元未満株式	普通株式 148,340		
発行済株式総数	759,521,040		
総株主の議決権		7,561,778	

- (注) 1. 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が2,400株(議決権の数24個)含まれております。  
 2. 「単元未満株式」の中には、当社保有の自己株式76株が含まれております。

【自己株式等】

2022年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
テルモ株式会社	東京都渋谷区幡ヶ谷 二丁目44番1号	3,194,900		3,194,900	0.42
計		3,194,900		3,194,900	0.42

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 要約四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の要約四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)第1条の2に掲げる「指定国際会計基準特定会社」の要件を満たすことから、同第93条の規定により、国際会計基準第34号「期中財務報告」(IAS第34号)に準拠して作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(2022年4月1日から2022年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(2022年4月1日から2022年6月30日まで)に係る要約四半期連結財務諸表について有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。



1 【要約四半期連結財務諸表】

(1) 【要約四半期連結財政状態計算書】

(単位：百万円)

	注記	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
<b>資産</b>			
<b>流動資産</b>			
現金及び現金同等物		205,251	209,566
営業債権及びその他の債権		135,998	142,239
その他の金融資産	10	63	157
棚卸資産		198,536	218,569
未収法人所得税等		778	819
その他の流動資産		18,086	19,318
流動資産合計		558,713	590,671
<b>非流動資産</b>			
有形固定資産		333,864	353,655
のれん及び無形資産		514,801	563,626
持分法で会計処理されている投資		4,133	3,931
その他の金融資産	10	25,937	35,688
繰延税金資産		20,198	20,721
その他の非流動資産		16,043	15,076
非流動資産合計		914,979	992,700
資産合計		1,473,693	1,583,371

(単位：百万円)

	注記	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
負債及び資本			
負債			
流動負債			
営業債務及びその他の債務		81,545	77,365
社債及び借入金	10	1,121	11,931
その他の金融負債	10	7,228	7,822
未払法人所得税等		14,104	12,961
引当金		499	457
その他の流動負債		73,222	72,926
流動負債合計		177,721	183,465
非流動負債			
社債及び借入金	10	224,875	223,569
その他の金融負債	10	30,297	31,186
繰延税金負債		12,746	13,358
退職給付に係る負債		5,811	6,232
引当金		113	122
その他の非流動負債		9,813	8,921
非流動負債合計		283,658	283,392
負債合計		461,379	466,857
資本			
資本金		38,716	38,716
資本剰余金		51,921	51,994
自己株式		6,229	6,147
利益剰余金		846,978	855,655
その他の資本の構成要素		80,926	176,294
親会社の所有者に帰属する持分合計		1,012,313	1,116,514
資本合計		1,012,313	1,116,514
負債及び資本合計		1,473,693	1,583,371

(2) 【要約四半期連結損益計算書】

注記	(単位：百万円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
売上収益	4, 8 171,716	197,340
売上原価	77,457	95,702
売上総利益	94,259	101,637
販売費及び一般管理費	58,140	70,627
その他の収益	563	1,902
その他の費用	448	2,484
営業利益	36,233	30,427
金融収益	248	515
金融費用	495	1,264
持分法による投資損益（は損失）	33	10
税引前四半期利益	36,020	29,667
法人所得税費用	8,125	7,268
四半期利益	27,895	22,398
四半期利益の帰属		
親会社の所有者	27,895	22,398
四半期利益	27,895	22,398
1株当たり四半期利益		
基本的1株当たり四半期利益（円）	9 36.90	29.61
希薄化後1株当たり四半期利益（円）	9 36.87	29.60

(3) 【要約四半期連結包括利益計算書】

	(単位：百万円)	
注記	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期利益	27,895	22,398
その他の包括利益		
純損益に振り替えられることのない項目		
その他の包括利益を通じて公正価値で 測定する金融資産	135	6
純損益に振り替えられることのない 項目合計	135	6
純損益に振り替えられる可能性のある 項目		
在外営業活動体の換算差額	790	95,395
キャッシュ・フロー・ヘッジ	40	109
ヘッジコスト	82	166
純損益に振り替えられる可能性のある 項目合計	832	95,338
その他の包括利益	696	95,345
四半期包括利益	28,592	117,743
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	28,592	117,743
四半期包括利益	28,592	117,743

(注) 上記の計算書の項目は、税引後で開示しております。

(4) 【要約四半期連結持分変動計算書】

前第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

(単位：百万円)

注記	親会社の所有者に帰属する持分					合計	資本合計
	資本金	資本 剰余金	自己株式	利益 剰余金	その他の 資本の 構成要素		
2021年4月1日時点の残高	38,716	51,829	6,838	775,078	2,123	856,662	856,662
四半期利益	-	-	-	27,895	-	27,895	27,895
その他の包括利益	-	-	-	-	696	696	696
四半期包括利益合計	-	-	-	27,895	696	28,592	28,592
自己株式の取得	-	-	0	-	-	0	0
自己株式の処分	-	-	23	1	21	0	0
剰余金の配当 7	-	-	-	11,340	-	11,340	11,340
株式報酬取引	-	50	-	-	-	50	50
転換社債型新株予約権付 社債の転換	-	0	40	0	-	39	39
所有者との取引額合計	-	50	64	11,342	21	11,249	11,249
2021年6月30日時点の残高	38,716	51,879	6,773	791,630	1,448	874,004	874,004

当第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

(単位：百万円)

注記	親会社の所有者に帰属する持分					合計	資本合計
	資本金	資本 剰余金	自己株式	利益 剰余金	その他の 資本の 構成要素		
2022年4月1日時点の残高	38,716	51,921	6,229	846,978	80,926	1,012,313	1,012,313
四半期利益	-	-	-	22,398	-	22,398	22,398
その他の包括利益	-	-	-	-	95,345	95,345	95,345
四半期包括利益合計	-	-	-	22,398	95,345	117,743	117,743
自己株式の取得	-	-	0	-	-	0	0
自己株式の処分	-	20	83	-	103	0	0
剰余金の配当 7	-	-	-	13,613	-	13,613	13,613
その他の資本の構成要素 から利益剰余金への振替	-	-	-	107	107	-	-
株式報酬取引	-	51	-	-	19	71	71
所有者との取引額合計	-	72	82	13,720	22	13,543	13,543
2022年6月30日時点の残高	38,716	51,994	6,147	855,655	176,294	1,116,514	1,116,514

## (5) 【要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

注記	(単位：百万円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
	36,020	29,667
税引前四半期利益		
減価償却費及び償却費	13,946	16,612
減損損失	5	1,699
持分法による投資損益(は益)	33	10
退職給付に係る資産及び負債の増減額	904	811
受取利息及び受取配当金	179	259
支払利息	332	767
為替差損益(は益)	190	2,313
固定資産除売却損益(は益)	26	17
営業債権及びその他の債権の増減額(は増加)	3,031	1,305
棚卸資産の増減額(は増加)	2,336	4,545
営業債務及びその他の債務の増減額(は減少)	4,777	4,050
その他	6,049	11,262
小計	41,074	33,052
利息及び配当金の受取額	434	792
利息の支払額	608	543
法人所得税の支払額	10,996	9,940
営業活動によるキャッシュ・フロー	29,904	23,361
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	14,073	11,523
有形固定資産の売却による収入	1	48
無形資産の取得による支出	5,878	4,195
有価証券の取得による支出	353	394
有価証券の売却による収入	-	78
子会社又はその他の事業の取得による支出	719	135
投資活動によるキャッシュ・フロー	21,023	16,122
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	-	648
長期借入金の返済による支出	250	297
社債の償還による支出	10,000	-
リース負債の返済による支出	1,640	1,787
自己株式の取得による支出	0	0
配当金の支払額	11,165	13,408
財務活動によるキャッシュ・フロー	23,056	14,845
現金及び現金同等物に係る換算差額	151	11,920
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	14,024	4,314
現金及び現金同等物の期首残高	200,770	205,251
現金及び現金同等物の四半期末残高	186,745	209,566

## 【要約四半期連結財務諸表注記】

### 1. 報告企業

テルモ株式会社(以下、当社)は日本国に所在する企業です。その登記されている本社及び主要な事業所の住所はホームページ(URL <https://www.terumo.co.jp/>)で開示しております。2022年6月30日に終了する3ヶ月間の当社の要約四半期連結財務諸表は、当社及びその子会社(以下、「当社グループ」)により構成されております。当社グループは、主な事業として、医療機器・医薬品の製造販売を行っております。

### 2. 作成の基礎

#### (1) 要約四半期連結財務諸表がIFRSに準拠している旨

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)第1条の2に掲げる「指定国際会計基準特定会社」の要件を満たすことから、同第93条の規定により、国際会計基準第34号「期中財務報告」(IAS第34号)に準拠して作成しております。

なお、要約四半期連結財務諸表は、年度の連結財務諸表で要求されるすべての情報が含まれていないため、前連結会計年度の連結財務諸表と併せて利用されるべきものです。

本要約四半期連結財務諸表は、2022年8月12日において代表取締役社長CEO佐藤慎次郎により公表の承認がなされております。

#### (2) 測定の基礎

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、公正価値で測定する特定の金融商品及び退職後給付制度に係る資産・負債等を除き、取得原価を基礎として作成しております。

#### (3) 機能通貨及び表示通貨

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、当社が営業活動を行う主要な経済環境における通貨である日本円で表示しております。日本円で表示しているすべての財務情報は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

#### (4) 見積り及び判断の利用

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、収益及び費用、資産及び負債の測定並びに四半期決算日現在の偶発事象の開示等に関する経営者の見積り及び仮定を含んでおります。これらの見積り及び仮定は、過去の経験及び利用可能な情報を収集し、決算日において合理的であると考えられる様々な要因を勘案した経営者の最善の判断に基づいております。しかし、その性質上、将来において、これらの見積り及び仮定とは異なる結果となる可能性があります。

なお、前連結会計年度の連結財務諸表注記に記載した見積り及び仮定から重要な変更はありません。

### 3. 重要な会計方針

当社グループが本要約四半期連結財務諸表において適用する重要な会計方針は、前連結会計年度に係る連結財務諸表において適用した重要な会計方針と同一です。

## 4. セグメント情報

## (1) 報告セグメントに関する基礎

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものです。

当社グループは、製品群別に分類された社内カンパニー制を採用しており、各社内カンパニー本部は、取り扱う製品について日本及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社は、社内カンパニー制を基礎とした製品群別のセグメントから構成された「心臓血管カンパニー」、「メディカルケアソリューションズカンパニー」及び「血液・細胞テクノロジーカンパニー」の3つを報告セグメントとしております。

前連結会計年度より、従来「ホスピタルカンパニー」のセグメント名称を「メディカルケアソリューションズカンパニー」に変更しております。当該変更は名称変更のみであり、セグメント情報に与える影響はありません。これに伴い、前第1四半期連結累計期間につきましても、変更後の名称で記載しております。

## (2) 報告セグメントに関する情報

当社グループの報告セグメントによる収益及び業績は以下のとおりです。

前第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注)	要約四半期 連結財務諸表 計上額
	心臓血管 カンパニー	メディカル ケアソリュー ションズ カンパニー	血液・細胞 テクノロジー カンパニー			
売上収益						
外部顧客への 売上収益	99,568	43,783	28,301	171,652	64	171,716
セグメント利益 (調整後営業利益) (調整項目)	29,368	6,448	5,987	41,805	1,601	40,203
買収無形資産の償却費	1,808	-	2,067	3,875	37	3,913
一時的な損益						56
営業利益						36,233
金融収益						248
金融費用						495
持分法による投資損益						33
税引前四半期利益						36,020

(注) 調整額は以下のとおりです。

- 外部顧客への売上収益の調整額64百万円は、報告セグメントに帰属しない外部向け人材派遣による収入等です。
- セグメント利益の調整額 1,601百万円には、棚卸資産の調整額 876百万円、欧州医療機器規則(MDR)への適合に伴う準備費用 579百万円等が含まれております。



当第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

(単位: 百万円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	要約四半期 連結財務諸表 計上額
	心臓血管 カンパニー	メディカル ケアソリュー ションズ カンパニー	血液・細胞 テクノロジー カンパニー			
売上収益						
外部顧客への 売上収益	116,825	45,992	34,459	197,278	62	197,340
セグメント利益 (調整後営業利益) (調整項目)	28,011	4,466	3,613	36,092	198	35,893
買収無形資産の償却費	2,174	-	2,449	4,623	51	4,572
一時的な損益(注) 2						893
営業利益						30,427
金融収益						515
金融費用						1,264
持分法による投資損益						10
税引前四半期利益						29,667

(注) 1. 調整額は以下のとおりです。

- 外部顧客への売上収益の調整額62百万円は、報告セグメントに帰属しない外部向け人材派遣による収入等です。
  - セグメント利益の調整額 198百万円には、欧州医療機器規則(MDR)への適合に伴う準備費用 720百万円、棚卸資産の調整額 212百万円等が含まれております。
2. 一時的な損益 893百万円には、技術資産の減損 1,699百万円、事業再編費用 483百万円、条件付対価の公正価値変動1,290百万円等が含まれております。

#### 5. 非金融資産の減損

当第1四半期連結累計期間において、一部技術資産の今後の使用が見込まれなくなったため、当該技術資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、減損損失1,699百万円を計上しております。

なお、回収可能価額は使用価値により測定しており、その価値をゼロとしております。当該減損損失は、要約四半期連結損益計算書の「その他の費用」に含まれております。

#### 6. 社債

前第1四半期連結累計期間において転換社債型新株予約権付社債の転換が行われております。転換された社債の帳簿価額は、テルモ株式会社2021年満期ユーロ円転換社債型新株予約権付社債39百万円です。

なお、前連結会計年度において転換社債型新株予約権付社債はその全額について転換が完了しております。

#### 7. 配当金

配当金の支払額は以下のとおりです。

前第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2021年6月22日 定時株主総会	普通株式	11,340	15	2021年3月31日	2021年6月23日

当第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2022年6月22日 定時株主総会	普通株式	13,613	18	2022年3月31日	2022年6月23日

8. 売上収益

当社グループは、「心臓血管カンパニー」、「メディカルケアソリューションズカンパニー」及び「血液・細胞テクノロジーカンパニー」の3つの報告セグメントを基本にして組織が構成されており、当社の取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績の評価をするために、定期的に検討を行う対象としていることから、これらの3つの報告セグメントで計上する収益を売上収益として表示しております。また、売上収益は顧客の所在地に基づき地域別に分解しております。これらの分解した売上収益と各報告セグメントの売上収益との関連は以下のとおりです。

前第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

(単位：百万円)

	心臓血管 カンパニー	メディカル ケアソ リュージ ョンズカン パニー	血液・細胞 テクノロジー カンパニー	合計	調整額	要約四半期 連結財務諸表 計上額
日本	12,698	33,996	2,416	49,111	64	49,175
欧州	25,148	2,419	6,933	34,501	-	34,501
米州	39,687	2,738	11,971	54,397	-	54,397
中国	12,814	602	2,057	15,473	-	15,473
アジア他	9,219	4,027	4,923	18,169	-	18,169
合計	99,568	43,783	28,301	171,652	64	171,716

当第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

(単位：百万円)

	心臓血管 カンパニー	メディカル ケアソ リュージ ョンズカン パニー	血液・細胞 テクノロジー カンパニー	合計	調整額	要約四半期 連結財務諸表 計上額
日本	12,853	34,512	2,441	49,807	62	49,869
欧州	27,989	2,598	7,986	38,574	-	38,574
米州	47,740	3,503	15,001	66,244	-	66,244
中国	15,716	931	2,720	19,369	-	19,369
アジア他	12,525	4,446	6,310	23,282	-	23,282
合計	116,825	45,992	34,459	197,278	62	197,340

前連結会計年度より、当社グループの管理実態に合わせ、従来はアジア他に含めていた中国を別掲しております。これに伴い前第1四半期連結累計期間の地域別情報は組み替えて表示しております。

「心臓血管カンパニー」においては、TIS(カテーテル)、ニューロバスキュラー、カーディオバスキュラー、血管領域の販売を行っております。

「メディカルケアソリューションズカンパニー」においては、ホスピタルケアソリューション、ライフケアソリューション、ファーマシューティカルソリューション領域の販売を行っております。

「血液・細胞テクノロジーカンパニー」においては、血液・細胞テクノロジー領域の販売を行っております。

「調整額」は、報告セグメントに帰属しない外部向け人材派遣による収入等です。

9. 1 株当たり四半期利益

当社の普通株主に帰属する基本的1株当たり四半期利益及び希薄化後1株当たり四半期利益の算定基礎は以下のとおりです。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
親会社の普通株主に帰属する四半期利益(百万円)	27,895	22,398
四半期利益調整額		
転換社債型新株予約権付社債による利益調整額 (百万円)	0	-
希薄化後1株当たり四半期利益の計算に使用する 四半期利益(百万円)	27,895	22,398
期中平均普通株式数(株)	756,029,574	756,348,644
普通株式増加数		
転換社債型新株予約権付社債(株)	239,996	-
ストック・オプション(株)	341,950	330,751
希薄化後の期中平均普通株式数(株)	756,611,520	756,679,395
基本的1株当たり四半期利益(円)	36.90	29.61
希薄化後1株当たり四半期利益(円)	36.87	29.60

(注) 基本的1株当たり四半期利益は、親会社の普通株主に帰属する四半期利益を、第1四半期連結累計期間中の発行済普通株式の加重平均株式数により除して算出しております。

10. 金融商品の公正価値

(1) 公正価値ヒエラルキーのレベル別分類

公正価値で測定する金融商品について、その公正価値測定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じた公正価値測定額を、レベル1からレベル3まで分類しております。当該分類において、それぞれの公正価値のヒエラルキーは、以下のように定義しております。

レベル1：活発な市場における同一の資産又は負債の市場価格

レベル2：レベル1以外の、観察可能な価格を直接又は間接的に使用して算出された公正価値

レベル3：観察不能なインプットを含む評価技法から算出された公正価値

(2) 経常的に公正価値で測定する金融資産及び金融負債の公正価値

公正価値のヒエラルキー

公正価値のヒエラルキーごとに分類された、要約四半期連結財政状態計算書に公正価値で認識する金融資産及び金融負債は以下のとおりです。

前連結会計年度末(2022年3月31日)

	レベル1	レベル2	レベル3	(単位：百万円) 合計
<b>金融資産</b>				
その他の金融資産				
純損益を通じて公正価値で測定する金融資産				
デリバティブ	-	4,129	-	4,129
その他	-	5,978	-	5,978
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産				
株式	5,335	-	2,754	8,090
その他	-	-	3,806	3,806
合計	5,335	10,108	6,560	22,004
<b>金融負債</b>				
その他の金融負債				
純損益を通じて公正価値で測定する金融負債				
デリバティブ	-	890	-	890
条件付対価	-	-	3,185	3,185
合計	-	890	3,185	4,075

当第1四半期連結会計期間(2022年6月30日)

	(単位:百万円)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
<b>金融資産</b>				
<b>その他の金融資産</b>				
純損益を通じて公正価値で測定する金融資産				
デリバティブ	-	12,988	-	12,988
その他	-	6,095	-	6,095
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産				
株式	4,933	-	3,334	8,268
その他	-	-	4,382	4,382
合計	4,933	19,083	7,717	31,734
<b>金融負債</b>				
<b>その他の金融負債</b>				
純損益を通じて公正価値で測定する金融負債				
デリバティブ	-	749	-	749
条件付対価	-	-	2,051	2,051
合計	-	749	2,051	2,800

レベル間の重要な振替が行われた金融商品の有無は毎四半期末日に判断しております。前連結会計年度及び当第1四半期連結会計期間において、レベル1、2の間で重要な振替が行われた金融商品はありません。

#### 金融資産及び金融負債の公正価値の測定方法

##### (a) 株式

上場株式については、取引所の価格によっており、公正価値ヒエラルキーレベル1に区分しております。

##### (b) デリバティブ

外国為替先物予約の公正価値は、期末日現在の先物為替レートを用いて算定した価値を現在価値に割引くことにより算定しております。また、金利通貨スワップの公正価値は金利等観察可能な市場データに基づき算定しております。そのため、為替予約及び金利通貨スワップについては、公正価値ヒエラルキーレベル2に区分しております。

##### (c) 条件付対価

企業結合により生じた条件付対価は、主にメデオン・バイオデザイン社から大口径止血デバイス事業を取得したことに伴うもの及び100%子会社化したクイレムメディカルB.V.の株式取得に伴うものです。

メデオン・バイオデザイン社からの事業取得に伴う条件付対価は、開発の完了やFDAの承認時期によっており、マイルストンの達成状況により、0から19百万米ドルの支払いが発生することとなります。その条件付対価の公正価値の算定にあたっては、期待キャッシュ・フロー法に基づいて算定しており、マイルストーンが達成されると見込まれる時期、その時期に応じて見込まれる支払額、その発生可能性並びに貨幣の時間価値を考慮して、公正価値を算定しております。

また、クイレムメディカルB.V.の株式取得に伴う条件付対価は、次世代開発品のCEマーク認証取得や特定の業績指標の達成等によっており、マイルストンの達成状況により、最大20百万米ドルの支払いが発生することとなります。その条件付対価の公正価値の算定にあたっては、期待キャッシュ・フロー法に基づいて算定しており、マイルストーンが達成されると見込まれる時期、その時期に応じて見込まれる支払額、その発生可能性並びに貨幣の時間価値を考慮して、公正価値を算定しております。

なお、見積りにあたっては、観察不能なインプットを含む評価技法から算出しているため、いずれも公正価値ヒエラルキーレベル3に区分しております。

レベル3の調整表

レベル3に分類された金融資産の期首から四半期末までの変動は、以下のとおりです。

	(単位：百万円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
期首残高	4,851	6,560
利得又は損失合計		
純損益(注)1	28	-
その他の包括利益(注)2	43	764
購入	352	391
その他	28	-
四半期末残高	<u>5,160</u>	<u>7,717</u>
報告期間末に保有している資産について純損益に計 上された当期の未実現損益の変動	-	-

- (注) 1. 要約四半期連結損益計算書の「金融収益」に含まれております。  
 2. その他の包括利益に含まれている利得及び損失は、その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産に関するものであり、要約四半期連結包括利益計算書の「その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産」及び「在外営業活動体の換算差額」に含まれております。

レベル3に分類された金融負債の期首から四半期末までの変動は、以下のとおりです。

	(単位：百万円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
期首残高	3,658	3,185
企業結合	50	-
決済	691	135
公正価値の変動(注)2	37	1,212
在外営業活動体の換算差額	16	213
四半期末残高	<u>3,071</u>	<u>2,051</u>
報告期間末に保有している負債について純損益に計 上された当期の未実現損益の変動(注)3	37	26

- (注) 1. 当該金融負債は、上記(c)に記載している条件付対価です。  
 2. 要約四半期連結損益計算書の「その他の収益」、「その他の費用」及び「金融費用」に含まれております。  
 3. 要約四半期連結損益計算書の「金融費用」に含まれております。

(3) 経常的に公正価値で測定されていないが、公正価値が開示されている金融資産及び金融負債の公正価値  
 公正価値及び帳簿価額

経常的に公正価値で測定されないが、公正価値が開示されている金融商品の帳簿価額及び公正価値は以下のとおりです。なお、帳簿価額が公正価値の合理的な近似値となっている金融商品は下表には含めておりません。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)		当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)	
	帳簿価額	公正価値	帳簿価額	公正価値
社債	29,956	29,959	29,959	29,970
長期借入金	196,040	195,561	204,858	204,296

(注) 1年内返済予定の長期借入金及び1年内償還予定の社債の残高を含んでおります。

金融資産及び金融負債の公正価値の算定方法

金融商品の公正価値の算定方法は以下のとおりです。

(a) 長期借入金

長期借入金のうち変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映しており、また、当社の信用状態は実行後大きく異なっていないことから、公正価値は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっております。また、固定金利によるものは、残存期間における元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。そのため、公正価値ヒエラルキーレベル3に区分しております。

(b) 社債

社債の公正価値は、市場価格に基づき算定しております。なお、社債については、市場価格があるものの活発な市場で取引されているわけではないため、公正価値ヒエラルキーレベル2に区分しております。

11. 偶発債務

該当事項はありません。

12. 後発事象

該当事項はありません。

## 2 【その他】

該当事項はありません。



## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年 8月12日

テルモ株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 小 山 秀 明

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 渡 辺 雄 一

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 松 尾 洋 孝

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているテルモ株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2022年4月1日から2022年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年6月30日まで）に係る要約四半期連結財務諸表、すなわち、要約四半期連結財政状態計算書、要約四半期連結損益計算書、要約四半期連結包括利益計算書、要約四半期連結持分変動計算書、要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び要約四半期連結財務諸表注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の要約四半期連結財務諸表が、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第93条により規定された国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して、テルモ株式会社及び連結子会社の2022年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「要約四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 要約四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

要約四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき要約四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、国際会計基準第1号「財務諸表の表示」第4項に基づき、継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 要約四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・継続企業的前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、要約四半期連結財務諸表において、国際会計基準第1号「財務諸表の表示」第4項に基づき、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業的前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において要約四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する要約四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、要約四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・要約四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた要約四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに要約四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、要約四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。